震災を乗り越え持続可能な未来を創造する人材育成プログラム

研究開発の背景

研　究　仮　説

学校と地域とが連携・協働する取組と学校内の取組とが全体として機能する体制を作り，カリキュラムを再構成することができれば，

○　高校卒業までに「地域への愛着，地域貢献意欲，自尊感情，自ら関わろうとする力，対話力・共感力・合意形成力」を身につけさせることができる。

○　具体的には，それぞれの力が身についたと考える生徒の割合が，
１年目５０％　２年目７０％　３年目８０％　を超えることができる

弱　み

高校生の課題

○　自己肯定感の弱さ
○　失敗を回避する傾向
○　主体性の弱さ

地域社会の課題

○　東日本大震災被災地
人口流出　学力・体力低下
コミュニティ崩壊

強　み

石巻地域高等教育事業団

○　石巻専修大学を中心に２市１町と圏域内県立学校で組織
○　地域課題等についての情報交換

ＳＤＧｓの取組

○　東松島市：ＳＤＧｓ未来都市選定
地域住民が社会課題を共有

コンソーシアムの構成等研究開発の実施体制



令和元年度の目標

育成したい地域人材

- 地域改善の情熱・信念を有する人材
- 役割を認識し課題に向き合う人材
- 人々を巻き込み課題に取り組む人材

習得させたい資質・能力

- 地域愛・地域貢献意欲
- 自尊感情・自ら関わろうとする力
- 対話力・共感力・合意形成力

これらの力が身に付いたと考える生徒：**50%以上**

主な取組状況

総合的な探究の時間

１学年 職業人インタビュー　インターン
２学年 地域理解講座　課題解決学習
３学年 ＳＤＧｓ地域課題研究

教科・科目

国語総合・現代社会・社会と情報
地理探究・環境と科学（学校設定科目）

教育課程外の活動

地域支援・学習支援ボランティア
課題研究フィールドワーク

成果と課題

高校魅力化評価システム結果

他地域に比べ高い評価

○　話し合った内容をまとめる
○　自分で計画を立てて活動することができる

他地域に比べ低い評価

○　地域の魅力や資源について考える
○　地域の人や課題などに直に触れる機会がある
○　私は自分自身に満足している

⇒　**事業開始前の先行的取組の乏しさが要因か**

独自アンケート結果

向上が見られた項目：主体性　協働性　探究性　社会性

次年度以降の課題

○　生徒の地域活動の推進　○　地域人材の一層の活用
○　圏域内他校との連携　○　研修で得た知見の活用
○　学びの土壌の醸成を意識したプログラム設計

別添資料３